

日々の活動「消極派」の3割がICT利用による人との繋がり拡大・深化を肯定

～社会的孤立を防ぐために、ICTがどのような役割を果たせるか～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

調査結果1 : ICTを利用することによる人との繋がりへの影響

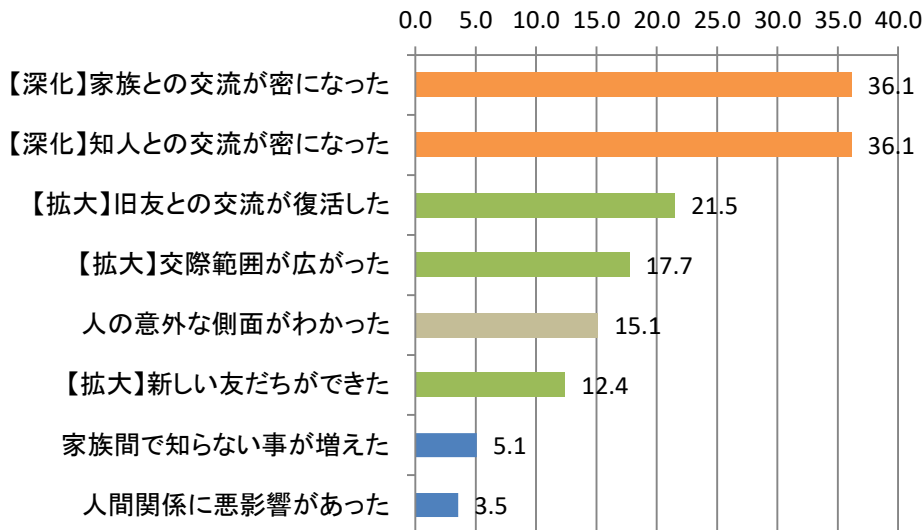
調査結果2 : ICTを利用することによる人との繋がりへの影響とシニアの日々の活動と相関

■ 調査結果

1-1 人との交流が密になる項目が高い、拡大した項目も2割強

ICTがもたらす効用の部分に「人との繋がりを深める、広げる」がある。レポートNo4でシニアにおいても、スマホなどを使うことで、その効果を感じている人が約半数存在したことを報告したが、最新の2018年調査ではどう変わったか。

まず、基本的な調査結果は図1の通り、家族や知人との交流が密になったと答えた人がそれぞれ4割弱存在した。また旧友との連絡が復活、新しい友だちができたなど「拡大」に関する項目も1割以上肯定された。



パソコン・スマートフォン・ケータイどれかを所有している人が対象

図1 ICTがもたらす人との繋がりへの影響

2-1 ICTを利用し、人との繋がりが「深まる」「広がる」グループは4割

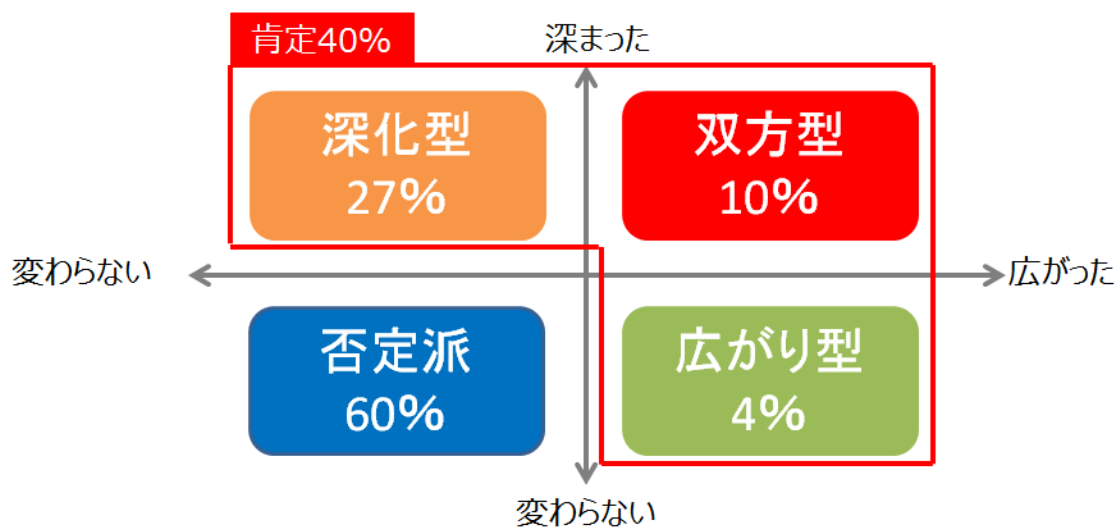


図2 ICTがもたらす人との繋がりへの回答傾向によるグループ

その回答傾向を元に、グループ分けをおこなった結果が、図2である。2015年と比較し、若干少なくなはなったが、約4割のシニアが人との繋がりを実感している。それでは前レポートでお伝えした、日々の活動と合わせてみるとどうか。

3-1 日々の活動「消極派」の3割がICT利用による人との繋がり拡大・深化を肯定

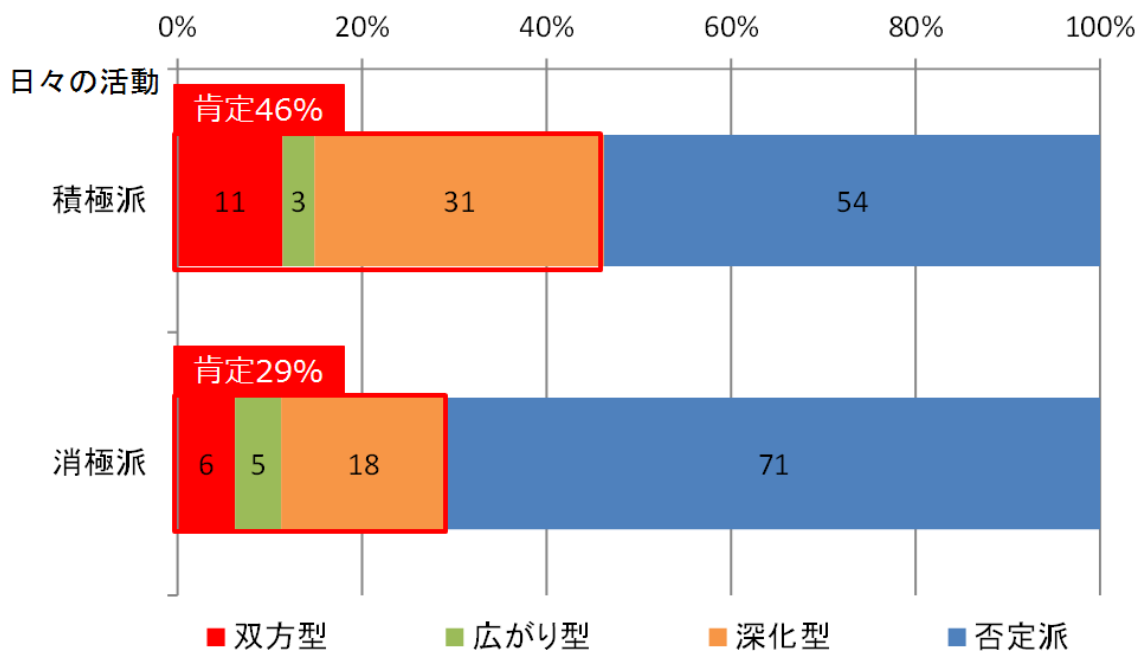


図3 ICTがもたらす人との繋がりグループと日々の活動

その結果（図3）は活動的なシニアの約半数は、ICT活用による人との繋がりの効果を感じている。注目したいのは日々の活動が消極派の人である。約3割がICT活用による人との繋がりを評価した。

それではどのようなシニアがそのように答えたか、特性を分析した。その結果は、60代前半、ICTサービスの利活用が活発、さらに主な外出手段が徒歩という特性が見られた。その一方、性別では差異は見られない。

日々の活動が、現在では人との交流はあまり盛んでなく、外部への活動も消極的なグループではあるが、一部ではICTによる人との繋がりに対し肯定的であることが認められた。ICTを利用することで人との繋がりができ、社会的孤立を防ぐことができる可能性があるのではないだろうか。

【参考資料】

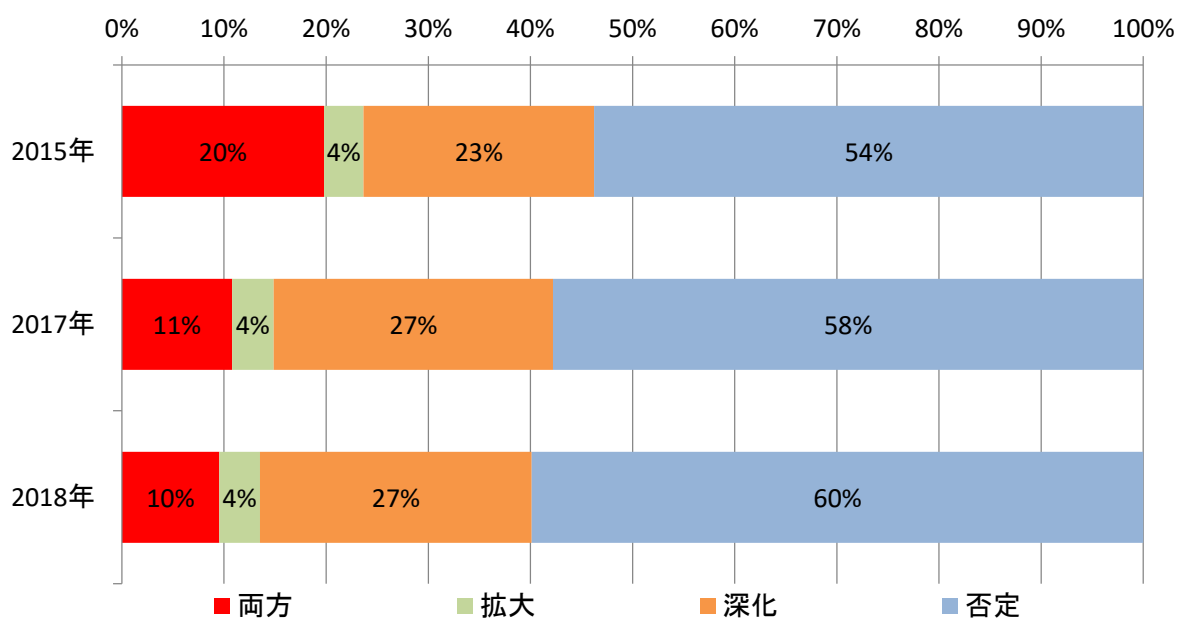


図5 ICTがもたらす人との繋がりグループ（経年変化）

■調査概要（調査名 シニア調査 訪問留置調査）

調査時期 : 2018年1月 調査対象 : 関東1都6県、60～79歳男女
標本抽出法 : QUOTA SAMPLING 性別・年齢・都市規模で割付 510サンプル回収

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。
株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com 03-5156-1087